
Honey so Sweet

オーシャン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Honey so Sweet

【コード】

N9621D

【作者名】

オーシャン

【あらすじ】

外国人女性の小さな冒険。“ なにか ”を探しに大東京の夜に彷徨する。

一編の詩の主題が、その詩にとって、無関係でありまた重要なことは、ちょうど一人の人間とその名と同じである。

ウ、アレリー

手櫛デ梳ク音がイタイ。

サンメンキヨウがワタシをつクル。サシアタツテ。

壇がアル。其のチュウシユツしたアロマオイルのPOTノ頭ノ余熱
デ飛んだニオイがワタシをイニヨウする。ツキアタリ。MOJO・

「ワタシからワタシへ」

影法師

海の近い故郷では自分の影が地上でも空でも放恣に伸びて、泣いても笑っても影が差した。

それで大東京の影の居場所の無さは、彼女の気に入った。

正午前は紙魚のように、夕さは涎のように正体を失う影。

黒のスウェットの下に世界地図のプリントされたシャツを忍ばせ、歩幅の狭い器用な歩調で、夜の歌舞伎町をなるべく賑やかな方面に向かつて歩いていった。

新・御油の宿

光源が小さい電飾の連続と知れると、やうやう白粉と香水の緋い交ぜになったのが匂い立つのに気付いた。

客引きの女は誰も顔色が均されていて、空は上海風の招牌に割され、いつまでも「いつか来た道」のそれで、樹海に迷い込んだようだ。

軍靴のマーチが聞こえてきた。ホスト連が隊伍してHomeBaseに帰順してゆく。片手に日の丸を戴いた扇を颯爽としながら、鼈甲色のグラサンを通して今宵の景気を調べている。

と、扇紙を閉ててちょうど落語家のやるように指呼した。

雨が申し訳に降っている。肩が延べ三回叩かれる。離子と洪笑と円の内外。

しかし、なんと静かなことだろう。内側は。

彼女は少し悪い酒でも飲んだように頭が冴えていた。

水平屋根のアパートには、タペストリーもタヌキの木彫りもなく、玄關口に瀬戸物の皿もない。

今、彼女は裸だ。

朝ぼらけに吐く息のように白い肌。湯気が紅を塗っていく。

鏡の中にはどこにも日本人の女はいなかった。

が、黒子の少しも“そばかす”でないとところが懐石の紫蘇のようである。

「こんな所に影がいたのね」と、ひとりごちた。

床に寝るのには、まだ抵抗がある。

ラブソファーにひとり。

天井が低いので不思議に落ちるのが怖い。

今日という日のために、思わず爪を噛む。

滋味の豊かな海の色の眼には、寄せては返る潮目があった。

意外に日の出の遅い大東京の夜には。さらに。

お仕舞い。

エピグラフは堀口大學訳。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9621d/>

Honey so Sweet

2010年12月10日08時04分発行